

# 国際交流センターだより vol.6

## 「第2回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」を開催しました

本学では英語教育の重要性を鑑み、臨床英語教育に力を入れています。その取り組みの一環として、学部教育時から「英語で医学や看護学を学ぶ」機会の充実を図るため、英語セミナーを開催しています。11月26日に開催した「第2回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」では、未来基礎医学准教授の森英一朗先生を講師にお迎えし、基礎研究者としてのキャリアパスについて英語でご講演頂きました。セミナーには医学科2年生およびTeams視聴者約50名が参加しました。今後も定期的に英語セミナーを開催し、本学の英語教育の活性化に繋がっていきたいと考えています。

### MESSAGE

国際交流センターセンター長

嶋 緑倫 (医学部長)

本年度から「医学を英語で学ぶ」プロジェクトが始まりました。本プロジェクトの第1弾が英語WEBセミナーです。初回は、9月に本学の招聘教授であるミシガン大学消化器内科の鎌田先生に、第2回は11月に未来基礎医学の森准教授によりご講演をいただきました。国際交流センターでは今後も定期的に海外で活躍されている先生方による英語でのセミナーを実施してまいります。英語で医学を学ぶことはchallengingですが、皆様のお役に立てることを祈っております。



参加した医学科2年生



英語で講演する森准教授

国際交流センター副センター長

森 英一朗 (未来基礎医学准教授)

第2回目の英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナーでは、対面では基礎医学の前期課程で解剖学・生理学・生化学を学んでいる最中の医学科2年生に対し、学内教員として「奈良医大卒の基礎研究者の生態～学生時代から今に至るまで～」と題して講演しました。研究内容に関して英語での質問が寄せられるなど、積極的な質疑応答が行われました。TeamsでのFormsやチャット機能を活用した双方向性の参加型のスタイルを取り入れる等の工夫を凝らしました。次回以降も、様々な工夫を凝らし、より質の高いセミナーにしていきたいよう努めて参ります。

### 学生の声

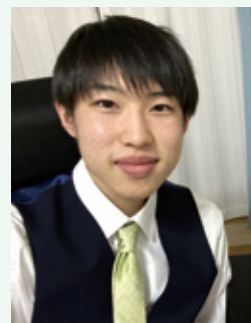
医学科2年 岡田 七海

森先生の講演を聞いて改めて英語学習の大切さを知りました。最先端の医療知識を得るためには世界中の文献に触れたり、様々な国で行われる学会などに参加したりすることになります。やはり世界共通言語である英語を身につけておくことは今後のキャリアの中でも大切なスキルになると思います。また、森先生の研究内容は非常に興味深く、一つのプロジェクトを成し遂げるのにも各業界の技術の統合が必要であり、医療以外の分野の研究者とも協力することは魅力的でした。



医学科2年 井口 一步

今回の英語セミナーは自分の英語学習、特にリスニングについて見つめ直す良い機会となりました。講演内容は先生の研究ということもあり専門性が高く、高度な理解能力を求められました。議論が込み入ってくると話の速さに追いつけず、断片的な理解で終わる部分がありました。私は将来海外で働くことに興味があります。講演を受けて現在の英語力と目指すべき地点の差を把握することができました。森先生に感謝を申し上げつつ、これからも英語能力の向上に励みたいと思います。



## 海外リサーチ・クラークシップ成果報告①：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップの参加学生の多くが、プログラム参加後も学内の研究室に所属し、研究活動に取り組んでいます。そんな学生が貢献・活躍した研究活動が、共著論文として発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。研究活動に興味がある学生の皆さん、研究室に所属している先輩に気軽に相談してみてください。そこには研究室でしか得られない出会いと学びがあります。

### ■ Nature Communications ■ C9orf72-derived arginine-rich poly-dipeptides impede phase modifiers

DOI:10.1038/s41467-021-25560-0 2021年9月6日 オンライン掲載／長田理瑚(医学科6年)、森川成孝(医学科5年)

#### ジャーナルに掲載されて

医学科6年 長田 理瑚

「神経変性疾患における相分離制御破綻の機序解明」に関する論文の共著者としてご掲載いただきました。本プロジェクトに参加させていただいたことで、様々な最新の実験手法について大変勉強になりました。実験では失敗することも多くありましたが、その度に先生方とディスカッションを重ね、一つ一つ乗り越えていくということを学生時代に経験できたことは大きな財産となりました。ご指導いただいた、七浦仁紀先生、森英一朗先生始め共著者の先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。



医学科5年 森川 成孝

「Nature Communications」誌での論文発表に際し、共著者としていただきました。実験には様々な困難が伴いましたが、自分が出したデータが figure として掲載された時の喜びは何物にも代えがたいと感じました。研究は長く時間をかけて結果を積み上げ、仮説を検証してゆきます。この一連の流れを学生の間に学ぶことができるのは非常に貴重な経験であると思います。ご指導いただいた共著者の先生方に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。この経験を活かし、今後も精進してまいりたいと思います。



## 海外リサーチ・クラークシップ成果報告②：西日本医学生学術フォーラム2021を開催しました

医学科5年 森川 成孝

11月13日に西日本医学生学術フォーラム2021を本学主催で開催いたしました。新型コロナ禍の影響でオンライン開催となりましたが8大学11演題の口演発表が行われ、様々な分野の発表や学生同士での活発な議論が交わされました。また本学OBの水野友貴先生(2020年卒)と中原一貴先生(2019年卒)にキャリアに関して講演いただき、自身の将来について考えを深める良い機会にもなりました。ブレイクアウトルームを利用した座談会セッションでは、所属大学・学年を超えた交流が行われたと感じております。開催にあたり尽力いただいた森英一朗先生(未来基礎医学)をはじめとする先生方、ともに学生代表を務めてくれた5年生4名、そして参加していただいた皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



発表・運営に携わった学生たち

リサーチ・クラークシップ：医学科2年生を対象とした研究室配属プログラムで、早期に国内外の研究室に参加することにより、研究マインドを育てることを目的としています。